

取り扱い説明書

K B R 型 揚程式 リリーフ・安全弁

各種圧力容器、計装機器、小型ボイラー、圧力配管などの安全弁、ポンプのリリーフ弁など広範囲にご使用いただけます。(液体用 = W・蒸気用 = S・気体用 = A の三種類がございます。)

【ご注意】

安全弁が作動しますと、流体が勢いよく吹き出しますので、二次側の配管をせず開放でお使いの場合は特にご注意下さい。

【取付前のご注意】

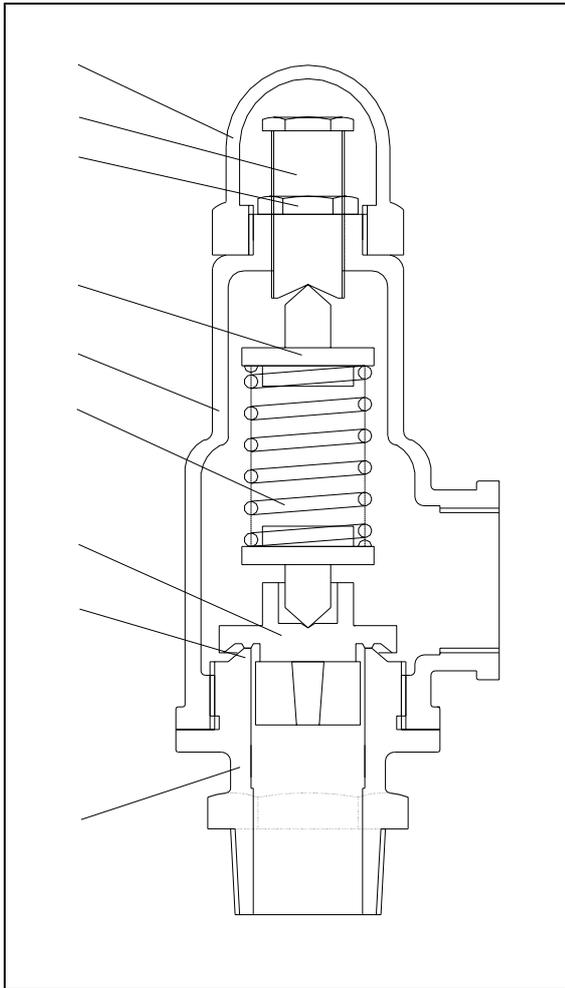
- 1) 安全弁(リリーフ弁)のサイズ、使用流体及びセット圧力をご確認下さい。
- 2) 機器内・管内・管体内等の清掃を行い、異物などを充分取り除いて下さい。
作動時に、ゴミ・スケールなど異物が入り込むと正常に動作しません。
安全弁(リリーフ弁)のゴミ噛み等の不具合は、安全弁取付直後に最も多く発生します。
- 3) 安全弁(リリーフ弁)取付の直前に、ゴミよけ用のキャップを取り外して下さい。

【取付時のご注意】

- 1) 安全弁(リリーフ弁)は保守点検が容易にできる場所に垂直に取付けて下さい。横位置でのご使用は、絶対に避けて下さい。
- 2) 安全弁(リリーフ弁)に外部から衝撃を加えることはさけて下さい。
- 3) 安全弁(リリーフ弁)の二次側配管は、その長さをできる限り短い距離で、かつ曲がりなるべく避け、屋外又は安全な場所へ導くようにし、これを適当に支えて安全弁に不当な応力(熱応力を含む)が発生しないようにして下さい。
- 4) 二次側配管に背圧または負圧が掛かっていないか確認して下さい。
二次側配管に背圧または負圧があると設定圧力で作動致しません。
- 5) 安全弁としてご使用の場合、二次側配管にドレン溜り等が発生しないよう、適当な箇所に開放のドレン抜きを取り付けて下さい。
ドレン溜りが有ると、二次側に背圧が掛り、設定圧力で作動しない場合があります。
- 6) 安全弁(リリーフ弁)取付時には、所定の六角部にスパナ等を用いて締め付けて下さい。
パイプレンチは、絶対に使わないで下さい。弁シート等の変形の原因になり作動不良を起こす可能性が有ります。

【安全弁の保守点検】

- 1) 安全弁(リリーフ弁)は、最低6ヶ月に一度、作動状態及びシート漏れを確認して下さい。
安全弁(リリーフ弁)は、バルブの性格上直前にストレーナー等を取り付けることが出来ませんので、ゴミ・スケール等が弁体に入り込み、シート漏れをおこす可能性が有ります。
シート漏れの有る場合は、【メンテナンスのしかた】を参照し調整を行って下さい。
- 2) 安全弁(リリーフ弁)の二次側配管の詰まり等がないか確認して下さい。
- 3) 安全弁(リリーフ弁)は、一年に一度当社にて、オーバーホールを実施することをおすすめします(有料)。



【メンテナンスのしかた】

1) 分解のしかた

- ・上部キャップ を反時計方向に回し取り外し、ロックナット を緩め調整ボルト を取り外す。
(ボルトの長さをノギス等で計測しておく、組み立て調整のときの目安になります。)
- ・スプリングケース を反時計方向に回し取り外し、内部のスプリング、スプリング受けを取り外す。

2) 組み立てのしかた

- ・上記分解のしかたの逆の手順で組み立てて下さい。

尚、メンテナンスの際安全弁が作動しますと、流体が勢いよく吹き出しますので、機器・配管内に圧力が無いことをご確認の上分解・取り外しをして下さい。

- ・プレート表示圧力以上の設定はしないで下さい。
- ・分解整備の時以外は、調整ボルトを動かさないで下さい。設定圧力が変化し大変危険です。

3) スリ合わせのしかた

長期間の使用またはゴミ等異物の噛み込みにより、弁・弁座に傷が生じた場合は、コンパウンド(800#~1200#)を用いて定盤にてスリ合わせをして下さい。

弁側は、定盤にてスリ合わせを行った弁座を使用し共ズリをして下さい。尚、共ズりに使用した弁座は、もう一度定盤にてスリ合わせをして下さい。

注意事項

- ・定盤、コンパウンドとも綺麗なものを使う。
- ・コンパウンドは、余りたくさんつけない。
- ・軽く定盤または弁体を回しながら行う。
- ・綺麗なウエスでコンパウンドを完全にふきとる。
- ・シート部に大きな傷の有る場合は、弁または弁座の取り替えを必要とします。

メンテナンスは、経験豊富な設備業者等の専門家にご依頼下さいますようお願い申し上げます。

(資)金内商会

東京都 墨田区 緑3-12-7

TEL 03-3635-1551 FAX 03-3634-6725

本書は、設備(装置)等お引き渡しのさい、必ずエンドユーザー様にお渡し下さい。